

平和の大切さ

弁城小6年 香月 未来さん



戦争についてみなさんはどう思いますか。戦後70年の今、戦争について考える機会が減ってきていると思います。私は「永遠の0」という本を借りて読んでみました。この本は、特攻で亡くなった祖父・宮部さんの生涯を、孫の健太郎と慶子が探るお話です。この本を読んで宮部さんの知り合いである伊藤さんと話している場面が心に残りました。伊藤さんがあの頃の私たちは、現代の条理の世界ではありません。死と隣り合わせの世界というか、生の中に死が混じり合った世界で生きていたのです。死をおそれる感覚では、生きていけない世界なのです。」と言ったところ。この言葉から、戦争のために命を投げ捨ててまで行かなければならないということに、とても戦争はおそろしいと思いました。次に、ひいおばあちゃんに戦争の話をお聞きしました。私のひいおばあちゃんは、終戦の年19才でした。ひいおばあちゃんは「爆弾を落としているときのことは、おそろしい言いざらん。」と言っていました。ひいおばあちゃんの兄弟3人が戦争に行ったそうです。いよいよ戦争に行く日、家族が見送った後、兄の一郎さんが戻ってきて、「今度は生きて帰らん。」と言ったそうです。終戦後、一郎さんの遺骨がかえってきたと思って白い箱を開けてみると、入っていたのは名刺型の紙に1cmほどの字で「山本一郎」と書いた紙切れ1枚。今でも紙切れはお墓の中に入っているそうです。私は、戦争はおそろしいと思ったと同時に、平和は大切だと思いました。今、世界では戦争をしているところがあります。戦争で苦しんでいる人もいます。私たちが、平和を守るためには、戦争のおそろしさを忘れず、平和を願うことが大切だと思えます。

明るい世の中にするために

金田小6年 森 有太郎さん



今年の夏、ぼくは福智町沖繩平和学習「少年の翼」に参加しました。少年の翼では、沖繩に行って沖繩の海、文化や歴史にふれることができました。また、中城村にある津覇小学校の友達ができました。そんな楽しい思い出を作ってくれた沖繩ですが、太平洋戦争で国内最大規模の地上戦があった場所なのです。沖繩戦では90日間で約20万人が亡くなりました。美しい沖繩の自然を見たぼくは、70年前にそんな恐ろしい戦争があったなんて信じられませんでした。沖繩への旅が終わり、ぼくは島原の祖父に会いに行きました。祖父に「70年前の8月9日、じいじは何をしたの。」とたずねました。すると祖父は「島原半島の海で遊んでいたよ。4才だったけど空が暗くて、まわりの人がさわいでいたのを覚えている。ずっと後に原子爆弾が落されたことを知ったんだよ。じいじのお父さんは、満州国の警察学校の校長先生だったけど、戦争中に病気になって死んでしまった。父親が亡くなったから日本に引きあげて来たんだよ。」と教えてくれました。話を聞いて戦争は人の命や生活をうばい、悲しみをずっと残してしまうものだと気付きました。社会を明るくするためには、平和な世の中を築くことが大事だと思います。今の日本は戦争の記憶がなくなりつつあるから、平和の大切さを十分に理解できていないと思います。ぼくは、沖繩で学んだことや祖父の話を伝えていきたいです。平和な世の中を築くためには、人と人とのつながりが大切だと思います。つながりがたくさん増えていけば、明るい世の中になっていくと思います。ぼくは人のつながりを大切に、みんなに感謝しながら生きていきたいと思えます。

いじめとは何かを知るために…

市場小6年 桑野 夕菜さん



みなさん、「いじめとはどこまでがいじめでどこまでがいじめではないのか」分かりますか。想像して下さい。目の前に笑顔の人がいます。どんな出来事があったから笑顔なのでしょう。周りから見れば笑顔でも心の中は見えません。心の中は苦しんでいたり泣いていたりしているのかもしれない。以前テレビで高校生がいじめられて自殺をしたというニュースを見ました。このニュースを見て、悪口や暴力などの出来事が大きいじめというものにつながるといって改めて気づきました。また5年生の頃、友達から聞いた話があります。ある男の子がため息をついていたので聞いてみると、隣のクラスの子と遊んでいたいつしか悪口を言われていたようです。いじめている側は楽しいかもしれないけれど、いじめられている側は誰にも相談できず一人で抱え込み、苦しい思いをしていることを知ることができました。これらのことから、どこまでがいじめか分からなかったとしても、一人一人が意識し、悪口や暴力がなくなれば、いじめや差別のないみんなが幸せな毎日を送れる世界になると思います。私も幼稚園の時、途中で幼稚園に入った事で周りの友達から暴言や仲間はずれをされたことがあります。家族に声をかけられましたが、心配をかけたくないあまり、「何でもないよ。」と笑ってごまかしたことがあります。いじめかどうかは、傷ついた人が「いじめられた」と思ったら、笑顔でもそれはいじめになると強く思いました。悪口やいじめをなくしたりすることが、笑顔が続く世界への第一歩だと思います。また私自身がいじめや悪口を注意する側になり、みんなにその行動を広めていくことも平和な世界への第一歩だと思います。

体育会で学んだこと

伊方小6年 大釜 孝介さん



ぼくは体育会で大きなことを学びました。それは、自信をもって挑戦すると必ずよい結果が出るということです。10月4日、小学校最後の体育会が行われました。今年の体育会は、六年生にとって大きな変化がありました。伊方小伝統の組体操をやめて、新しい表現「マスゲーム」に変えたからです。9月の初め、マスゲームをするということを先生から聞きました。マスゲームのビデオを観て、本当にぼくたちにこんな難しい演技ができるのだろうかかと不安になりました。しかし体育会でマスゲームという新しい伝統をつくり、引き継いでもらうため、ぼくたちが大成功を収めなければならないと思いました。それと担任の近藤先生が体調を悪くしてお休みをされたので、体育会に来れない先生にマスゲームを見せたいと思い、頑張ろうと心に決めました。そして練習を始めて一ヶ月。マスゲームは無事に完成しました。毎日みんな汗びしょりになって頑張ったマスゲーム。筋肉痛で苦しかった日も多かったのですが、とてもうれしかったです。そして体育会はやってきました。ぼくは観ている人みんなに喜んでもらいたくて一生懸命演技をしました。技の途中で、行進しながら斜め交差をしたとき大きな拍手をもらいました。とてもうれしくてその後も精一杯頑張りました。だからぼくは思うのです。大成功をさせたいのなら、自信をもって挑戦することが必要だと。何でもすぐにあきらめず一生懸命練習し、自信をもって本気で挑戦すれば必ず結果がついてきます。そうすることで、大きな達成感を感じることができるのだと思うのです。みなさんも自信をもって挑戦してみてください。それが大成功につながる第一歩だと思います。

未来へつなげる上野焼

上野小6年 浦田 星和さん



上野焼が未来へずっと続いていくこと。このことは福智町の人々にとって、とても大切なことです。なぜなら、上野焼は全国に名をとどろかせる私たちのふるさとの誇りだからです。この上野焼の伝統が続いていくためには、身近な人が上野焼について知り、それを次の世代の人たちに伝えることが、上野焼がずっと続くひけつであると思います。なぜこのように考えたかという、五年生の時、上野焼の窯元さんの所へ行き、上野焼について様々なことを教えていただいたからです。四百年も前から続けている上野焼が今も形を変えず受け継がれていくのは、とてもすごいなと思いました。同時に上野の地域に住んでいるからこそ上野焼について学び、次の世代に継いでいくことで未来へつないでいきたいと思いました。窯元さんにどんな思いで上野焼をつくり続けているか伺ってみると、窯元さんは、「次の世代につなげて、上野焼の伝統をこわさないようにと思いつつながら上野焼をつくり続けているんですよ。」とおっしゃいました。しかし、自分の窯を引き継いでくれる人がいないと困っている状況があることも伺いました。だから私は、今まで学んできた上野焼の素晴らしさを伝えていきたいと思いました。伝えていくだけでは上野焼が未来へつなげるとは限らないと思う人がいるかもしれません。でも私は地道な取り組みや一人一人ができることを考え実行していくことで、上野焼が未来へつなげていくと考えます。また、窯元さんがどんな思いで取り組んでいるのを知り、地域が支えていく必要があると思います。私はこれからも上野焼の伝統や良さを学び、次世代に伝え、いつまでもみんなに愛される上野焼を支えていきます。

福智町青少年育成町民会議主催

第10回 福智町 少年の主張大会

届け、私の思い

12月6日、公民館金田分館で少年の主張大会が行われました。各学校から8人の児童生徒がそれぞれの思いを発表。次世代を担う子どもたちの言葉に、会場からは惜しみない拍手が送られました。

最優秀賞



地区大会でも頑張ります!!

今回、最優秀賞を獲得したのは金田中2年の松田のどかさんでした。松田さんは2月14日(日)に赤村住民センターで行われる田川地区大会で、福智町代表として発表します。



↑主張を発表した各校の代表者と、当日司会を務めた永富龍一さん(金田中・後列左)。